

真の意味での組織化を目指して



技術統括 村上 義博

技術職員は担当業務について各配属先で各人が業務指示者の指示で業務に励んでおり、それぞれの持つ専門的な技術を活かして教育・研究の支援に当たっています。また最近では、全学支援組織として当センターが周知された結果として、組織としての活動にも期待が寄せられているように感じています。

そうした中、複数の業務の中で必要な支援形態をどのように保っていくのかといった面で、業務指示者から組織的な対応を求められており、上司との報連相（報告・連絡・相談）を密にしておくことが大切です。重要な連絡は上から下（技術統括・技術副統括→部門長→技術班長→技術職員）、報告はその逆（技術職員→技術班長→部門長→技術統括・技術副統括）という流れが求められています。上司とのコミュニケーションを日頃から図っていただきたいと思います。

本年度の技術センター研修会は、学士会館レセプションホールで、9月15日の午後に行いました。

特別講演は、生物圏科学研究科・瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター長の前田 照夫教授に「広島大学大学院生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターの現状と今後について」と題してお話いただきました。また、前田教授が研究なされている内容についてもお話いただき、日夜進歩していく家畜の繁殖技術について垣間見えた気がいたしました。技術センターへの要望もいただき、少しでもご希望に添えるように努力していくつもりです。前田教授には厚く御礼申し上げます。

また、例年通り各部門から1名ずつの技術発表とあわせてフィールド科学系部門の活動報告がありました。年を追うごとにプレゼンテーション能力が向上しているように思います。報告された技術職員の皆様、ありがとうございました。

昨年に続いて今回も山本技術センター長から今後の人員計画についてのお話がありました。技術センターが発足して約11年が経過し、次の10年、技術センターをどのような形に持って行くかの報告です。皆様のご協力・ご理解をお願いいたします。

最後に、本号から技術センター報告集は、紙媒体から電子媒体での発行となりました。発刊にご尽力くださいました学術支援グループ、報告集編集ワーキンググループ委員の皆様にご挨拶申し上げます。